

農業委員会だより

編集／発行 那須塩原市農業委員会 那須塩原市共墾社108-2 TEL 0287-62-7186



▲ネギの収穫の様子(三区町内の藤田さん)

水田を活用し、ネギの栽培に取り組んでいます。

◀青木環境保全会のカバークロープの取組

稲刈り後に種をまき、春に成長した麦を田んぼにすき込んで、環境にやさしい土づくりに取り組んでいます。

3月号
令和4(2022)年
No.40

主な内容

特集「気候変動・地球温暖化と農業」、農業産出額	2、3
研修会・なしおふれあいトーク、人・農地プランのモデル取組み、優良担い手の表彰	4
令和4年度農作業標準料金表	5
賃借料情報、令和4年度総会等の日程、農地転用の注意	6
あっせん基準、農業経営に係る各種制度 PR	7
活動日誌、産直紹介「鳥野目直売所」、全国農業新聞	8

気候変動・地球温暖化と農業

近年、局地的な大雨などによる大規模災害が頻発し、人の暮らしや社会活動への影響のほか、農作物や農業施設等も大きな被害を受けています。また、今後の気候変動に伴い、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予想されています。

国では、気候変動・地球温暖化の解決に向けて、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しており、本市も同様の意思表示をしています。

気候変動・地球温暖化が農作物に与える影響

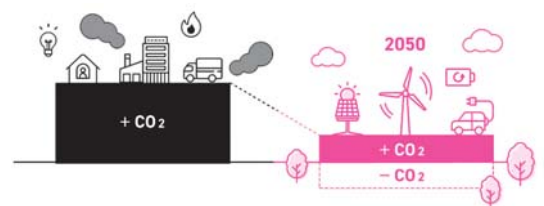
気候変動・地球温暖化により水稻の高温障害、果実の着色不良、畜産動物の生育障害、病害虫の多発など、農作物にさまざまな影響があるとされています。

「みどりの食料システム戦略」の策定

将来にわたって食料の安定供給を図るためには、災害や温暖化に強く、生産者の減少やポストコロナも見据えた施策を推進していく必要があります。持続可能な食料システムを構築するため、国は令和3年5月に、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を実現する「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

戦略では次の目標を掲げており、環境保全に向けた農業の取組の推進が益々重要となります。

項目	2050年までに目指す姿と取組方向 ※一部抜粋
温室効果ガス	農林水産業のCO2ゼロエミッション化
施設園芸	化石燃料を使用しない施設への完全移行
化学農薬	2040年までに新規農薬等を開発 化学農薬も使用量（リスク換算）を50%低減
化学肥料	化学肥料の使用量を30%低減
有機農業	2040年までに次世代農業に関する技術を確立 2050年までにオーガニック市場を拡大しつつ、有機農業の取組面積割合を25%（100万ha）に拡大



エコ農業（環境保全型農業）の推進

農業の生産性は、機械化、生産基盤の整備、品種改良等が進められたほか、化学肥料や農薬の施用等により大幅な向上が図られました。一方で、耕畜連携の後退や労働力不足等に伴い、堆肥等の有機質肥料から化学肥料に転換し、更に効率を追求したり、不適切な資材利用・管理により、農業生産活動が環境へ負荷を与える場合もあります。

今後、持続的な生産活動を推進するとともに、環境への負荷の低減を図るため、エコ農業の取組の推進が大切です。

“エコ農業とちぎ”を実践してみませんか ～栃木県では「エコ農業とちぎ実践宣言」を募集～
「エコ農業とちぎ」とは、地球温暖化の防止、生物多様性の維持・向上、環境負荷の低減、安全・安心・信頼性の確保という、今日の農業に求められている4つの課題解決に向けた取組です。

農業者一人ひとりができることから始めてみませんか。

※問い合わせ先 県経営技術課（028-623-2285）

項目	活動内容
地球温暖化の防止	窒素施肥量の適正化・低減 稲わらすき込み時期の転換（春→秋）など
生物多様性の維持・向上	緑のあぜづくり、中干しの調整 など
環境負荷の低減	減農薬・減化学肥料栽培 発生予察情報と病害虫発生状況に基づく防除 など
安全・安心・信頼性の確保	GAPの実践、放射性物質対策の徹底



環境保全活動に対する支援制度を紹介します

国では、「環境保全型農業直接支払交付金」により化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う、地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援しています。

本市では、令和3年度に41団体（1,057ha）が環境保全型農業に取り組んでいます。

- ・対象者 農業者の組織する団体、一定の条件を満たす農業者
- ・取組内容 有機農業、堆肥の施用、カバークロップ、リビングマルチなど
- ・交付単価 取組内容により異なります。

※問い合わせ先 農務畜産課（0287-62-7174）

○市内の取組み事例を紹介します。（青木環境保全会 代表：高瀬辰夫さん）

私たちの青木環境保全会は、環境保全に配慮した持続的な農業に取り組む、地球温暖化の防止や生物多様性の保全の役に立ちたいと思い、平成26年から環境保全型農業に取り組んでいます。

具体的な取組内容は、5軒の農家が約40haの農地でカバークロップ（緑肥）を栽培しております。稲刈りに後に規格外の二条大麦の種をまき春に田んぼにすき込むという、環境にやさしい土づくりに取り組んでいます。始めてから8年目を迎えておりますが、その効果が表れて、今では化学肥料や農薬の使用量が従前と比べて半分以下に抑えられています。

また、より安全・安心なお米を作れるほかに、米の価格が下落している状況ですが、取組みに対する交付金があるため、経営の助けにもなっています。

今後は、農家の減少によりICTやロボットなどの最先端技術を活用したスマート農業の導入等も必要であると思いますが、このような環境にやさしい農業への取組みも重要であるため、できる限り継続して行きたいと考えています。

（取材：大田原重夫農業委員）

那須塩原市の農業産出額（推計）のお知らせ

生乳産出額は令和元年も本州1位を確保しました

○農業産出額の推移

調査年	農業産出額	全国順位	県内順位
平成29年	367.0億円	21位	1位
平成30年	366.3億円	17位	1位
令和元年	443.9億円	11位	1位



○令和元年の部門別農業産出額の状況

部門	農業産出額	県内順位	参考：県内1位の市町村
耕種	104.4億円	5位	宇都宮市176.2億円
うち米	52.1億円	4位	大田原市 75.7億円
うち野菜	39.6億円	8位	真岡市 104.8億円
畜産	339.5億円	1位	本市
うち生乳	187.9億円	1位	本市

出典：農林水産省が公表した「令和元年市町別農業産出額（推計）」より

「なしおふれあいトーク2021」(ZOOMによるリモート会議)に参加しました。

日 時：令和3年11月12日(金) 主催：那須塩原市議会建設経済常任委員会
テーマ：農業の担い手を育成・増加させるためには

(加藤 拓央農業委員)

参加者は、市議会議員8名、JA青年部5名、農村生活研究グループから1名、おためしファーマー1名、那須拓陽高校生5名、黒磯高生2名、市内農業者1名、農福連携事業者1名、農業委員3名により3班に分かれ2回のローテーションを行い全員とテーマについて意見交換を行いました。JA青年部やおためしファーマーの若い世代の人達が、これからの農業について積極的な意見を聞くことができました。又、私は高校生の皆さんに、農業に対し興味や魅力はありますかと問いかけたところ非常に興味がありやってみたいという多くの意見がありました。限られた2時間ではありましたが、貴重な情報を知ることができました。建設経済常任委員会の皆様にはこのような会議を聞いて頂き、また、農業に対し深いご理解とご尽力を頂き心から感謝申し上げます。

(槌江 栄作農業委員)

参加した那須拓陽高校の生徒からは、農業後継者としての前向きな意見を聞いて心強く思いました。黒磯高校の生徒からは、就職先としての農業に対する不安や疑問があり、改めて、職業としての農業を考えさせられました。

農福連携や地域活性化を通じた鳥獣害対策の事例の紹介からは、今後の農業のあり方や、農地の維持・保全に対するヒントをもらえました。又、農業委員会の役割を話す場面があり、貴重な機会になりました。

(竹村 文祥農業委員)

参加した高校生の質問や、感想は自分が思っていたよりも広く・深く切り込んできました。

それは、「僕は、普通高校で農業の勉強はしていないが、地元の農業の事をもっと知りたい・感じるイベントにも参加してみたい」との事でした。

農業委員として、就農意欲の有る農業高校の生徒さんとは何回と交流してきましたが、普通高校の生徒さん達とも農業について交流できる場を作り、出前授業などを通して農業の発展に繋げていきたいと思いました。

「女性農業委員・農地利用最適化推進委員研修会」に参加しました。

(室井 孝美農業委員)

全国農業会議所の佐藤雄太主事による「女性農業委員・女性農地利用最適化推進委員に期待すること」という講話がありました。講話の中で、人・農地プランの実現が大切な事、そのためには、関係機関だけでなく地域の多くの方が力を合わせる事が必要であるなどの話があり、女性農業委員として、やわらかく皆様の間に入り力を合わせなければいけないと実感しました。

最後に、意見交換会があり、私たちのグループでは、女性農業委員の人数が減少しないようにするためには、「関係機関にお願いしていかなければいけない。」など、女性の登用の難しい事を、話し合いました。

我が市においても、女性農業委員の数を減らさず、女性としての力を発揮できる人を多く登用してほしいし、多くの人に、手をあげて、農業委員になってほしいと思いました。

人・農地プランの実現に向けた取組について

本市では、令和元年度からの地域会合やアンケート結果をもとに地域の将来方針を決定し、農業委員、農地利用最適化推進委員の御協力のもと、令和2年度までに市内全域40地区の「人・農地プラン」を実質化しました。

人・農地プランについて将来方針を決めたことが終わりではなく、地域において、主体的かつ継続的に話し合いを行い、みなさんの意見を基にプラン実行の取組を進めていく必要があります。

そのため、令和3年度からは「人・農地プラン」の実現に向けて、新たな取組を推進しております。人・農地プランの将来方針の中でも、特に農地集積・集約化の実践が期待できる下大貫地区をモデル地区として、現在、継続的に話し合いを進めているところであります。

下大貫地区で行われた話し合いでの事例は先進的事例として、今後、他の地区における話し合いに活用していきたいと考えています。

農業者の皆様におかれましては、農地の集積・集約等、人・農地プランの実現に向けた取組の御理解と御協力をお願いいたします。

令和3年11月優良担い手表彰で 知事賞を受賞 西遅沢 遅澤喜則さん

遅澤さんは、現在、西遅沢地区において、水稲と園芸作物(なす、ねぎ)の複合経営を行っています。農業従事歴は34年、集落、地域主義をモットーに、農業経営の改善に積極的に取り組み、地域農業の振興や活性化に寄与しているとして、栃木県担い手育成総合支援協議会長賞、知事賞を受賞されました。

水稲部門においては、WC S稲や飼料用米など国県が推奨する戦略的作物に組み込み、機械化を図り作業効率、生産性の向上を図っているほか、園芸部門においては、米価安に対応した所得確保の一環として、早くから露地なす、露地ねぎ栽培に組み込み、現在では、那須管内においてもトップクラスに位置しています。

また、外国人技能実習生を始め、新規就農希望者等を研修生として積極的に受け入れ、きめ細かでの確かな指導力には定評があり、今後の担い手の育成、地域農業のけん引役として指導に当たってくれています。



令和4(2022)年度 那須塩原市農作業標準料金表 (すべて消費税は含まれておりません。)

作目	作業名	単位	金額	備考	
稲	耕起	10a	3,500円	ロータリー耕1回	
			4,000円	プラウ耕	
	荒代	10a	3,000円	プラウ耕した圃場は500円加算	
	畦畔ぬり(つき)	1m	50円	機械の貸出25円	
	育苗	1箱	640円	圃場渡し(運搬)の場合60円加算	
	施肥	10a	1,000円	肥料及び補助員は別(ブロードキャスター)	
	植代	10a	4,000円	機械ならし	
	田植え	10a	5,000円	機械による植付。補助作業・側条施肥は各1,000円加算、箱処理剤同時散布・除草剤同時散布は各500円加算(農薬代別)	
	防除	(液剤)	10a	1,250円	農薬代別・動噴
		(粉・粒剤)		1,000円	
		(フロアブル)		900円	
	畦畔草刈り	1m ²	15円	草刈り機による作業、燃料含む	
	稲刈り(コンバイン)	10a	14,000円		
	籾運搬	10a	1,200円	圃場から乾燥施設まで、10km以上(10a)1,500円	
	乾燥・調製	1袋30kg	550円	乾燥のみ350円・調製200円	
	色彩選別	30kg	320円		
稲わら梱包(ヘイペーラ)	1梱包	200円	1梱包13kg		
稲わら梱包(ロールペーラ)	1梱包	1,500円	1梱包 直径120cm 標準(搬出別)		
堆肥散布	10a	2,300円	マニアスプレッダー 2t/10a基準(堆肥別)		
麦	播種	10a	3,500円	ドリルシーダーによる作業	
	麦踏み	10a	800円	トラクター(オペレータ含む)	
	防除	10a	1,250円	農薬代別	
	麦刈り(コンバイン)	10a	14,000円		
	乾燥・調製	1袋25kg	600円		
	麦運搬	10a	1,200円	圃場から乾燥施設まで、10km以上(10a)1,500円	
大豆	播種	10a	3,000円	ロータリー耕1回	
	中耕培土	10a	3,500円	管理機械作業	
	防除	10a	1,250円	農薬代別	
	収穫	10a	10,000円	コンバイン作業、補助員含む	
	選別機	30kg	79円	作業機のみ	
畑	堆肥散布	10a	2,300円	マニアスプレッダー 2t/10a基準(堆肥別)	
	牧草刈取(モアコン)	10a	2,000円		
	牧草刈取(コーンハーベスタ)	10a	6,000円		
	牧草反転集草	10a	2,000円	反転2回、集草	
	飼料作物(牧草)ロール作業	1梱包	2,000円	直径120cm 標準(搬出別)	
	飼料作物(デントコーン)ロール作業	1梱包	2,000円	直径100cm 標準(搬出別)	
	飼料作物ラッピング	1梱包	1,000円	二重巻標準	
	飼料作物収穫作業(刈取・運搬・サイロ詰)	10a	15,000円	踏み込みは含まず	
手作業	農作業一般(稲作・畑作)	1人1時間	882円	栃木県の最低賃金(令和3年10月改定) ※最低賃金が改定された場合は、最低賃金以上の額にしてください	

○表に載っていない項目については、相互協議の上決定してください。

○標準料金ですので、圃場条件や作業の難易度等が著しく異なる場合又は荒廃農地等の再生により作業条件が大きく異なる場合は別途協議の上決定してください。

○カントリーエレベーター利用料金は、別途利用料金設定となります。

令和3(2021)年12月24日

那須塩原市農業委員会

那須塩原市賃借料情報

令和3(2021)年1月から12月までに締結(公告)された賃貸借における10aあたりの賃借料水準は、以下のとおりとなっております。

令和4(2022)年1月25日

【田(水稻)の部】

【畑(普通畑)の部】

締結(公告) された地域名	平均額	最高額	最低額	筆数	締結(公告) された地域名	平均額	最高額	最低額	筆数
黒磯	9,700円	13,500円	5,000円	80筆	黒磯	9,400円	13,000円	6,800円	16筆
鍋掛	15,600円	23,800円	7,600円	89筆	鍋掛	7,000円	7,000円	7,000円	7筆
東那須野	11,100円	18,000円	4,200円	250筆	東那須野	10,200円	15,000円	4,200円	12筆
高林	9,200円	14,000円	6,000円	67筆	高林	7,900円	11,000円	5,000円	114筆
狩野	11,600円	18,000円	5,000円	212筆	狩野	6,400円	11,000円	3,000円	31筆
西那須野	12,300円	18,000円	5,000円	183筆	西那須野	7,800円	14,000円	2,700円	10筆
箒根	11,000円	18,000円	4,500円	339筆	箒根	8,400円	10,000円	7,400円	10筆
塩原	8,000円	8,000円	8,000円	4筆	塩原	8,500円	9,000円	7,900円	2筆
(参考) 那須塩原市全体	11,100円	23,800円	4,200円	1,224筆	(参考) 那須塩原市全体	8,200円	15,000円	2,700円	202筆

※田、畑の平均額は筆数による加重平均により算出、
物納については玄米4,500円/30kgで換算

※塩原の田は参考値が無いため平成30年1月から
12月までの数字を記載

※鍋掛の畑は参考値が無いため令和2年1月から
12月までの数字を記載

令和4年度 各種申請の締切日と総会開催日

月	申請締切日 (曜日)	総会開催日 (曜日)	月	申請締切日 (曜日)	総会開催日 (曜日)
4月	5日(火)	25日(月)	10月	9月30日(金)※	25日(火)
5月	2日(月)	25日(水)	11月	4日(金)	25日(金)
6月	3日(金)	27日(月)	12月	5日(月)	26日(月)
7月	5日(火)	25日(月)	1月	5日(木)	25日(水)
8月	5日(金)	25日(木)	2月	3日(金)	27日(月)
9月	5日(月)	26日(月)	3月	3日(金)	27日(月)

※10月の申請受付は前月の9月30日までとなりますので、御留意ください。

◆総会で審査が必要な案件

- ・農地法に基づく許可申請(第3条:農地としての貸借・売買、第4条・第5条:農地以外への転用)
- ・非農地証明願 ・買受適格証明願 ・農地の相続税、贈与税の納税猶予に関する適格者証明願など
[留意]

申請には添付書類が多く準備に時間がかかる場合がありますので、余裕を持って事前に農業委員会にご相談ください。

農地の転用、所有権移転には農業委員会の許可が必要です。

無断転用は違反です!!

農地の転用、所有権移転には農業委員会の許可が必要です。

農地転用の許可を受けず、無断で農地を転用した場合、所有者または事業者は、原状回復や罰金等が科される場合があります。

農地移動適正化あっせん基準の見直しを行いました

農地を「売りたい(貸したい)」「買いたい(借りたい)」などの希望のある方について、農業委員があっせんを行います。なお、農地等の受け手については、次の基準面積等を超える方が対象となります。

その他要件等について、詳しくは農業委員会へご相談ください。

地区名	基準面積	基準飼養規模	
		肉用牛	乳用牛
旧黒磯市	390アール	52頭	96頭
旧西那須野町及び旧塩原町	270アール		

※農業振興地域内の農用地等が事業の対象となります。
※売買・貸借の相手方が決まっている場合には、事業の対象となりません。

農業経営の合理化に係る各種制度PRコーナー

□農業者年金に加入して安心してゆとりある老後を!!

- ・農業者の方なら広く加入できます。
- ・少子高齢化時代に強い「積み立て方式」「確定拠出型」の年金です。
- ・保険料は所定の範囲内で自由に決めることができます。
- ・終身年金です。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金があります。
- ・税制面の優遇措置があります。
- ・一定の要件のもと、保険料の国庫補助があります。

□青色申告を始めましょう

農業経営の着実な発展を図るためには、経営上の収入・支出・資産・負債の状況を客観的に見極められるよう経営管理を行うことが重要です。

青色申告を行うメリット

- ・最高65万円の特別控除がある
- ・農業者年金の保険料補助(最高1万円/月)を受けることができる
- ・農業経営収入保険に加入することができる など

□収入保険 ～農業者の皆さん リスクへの備えはできていますか?～

収入保険は、農産物の販売収入全体を対象に、自然災害や価格低下などの経営努力では避けられない収入減を補償する制度です。加入には、青色申告を行っていることなど、条件があります。

- ・農業共済がなかった農産物も対象です。
- ・怪我による収入減も補てんされます。

※詳細や申込みについては、農業共済組合へお問い合わせください。

□家族経営協定を結んでみませんか?

農業は、家族経営が大半を占めており、仕事と生活の境目が明確ではありません。家族農業経営は、家族だからこそその良い点がたくさんありますが、労働時間や労働報酬などが曖昧になりやすく、そこから様々な不満やストレスが生じがちです。

農業経営を、経営主だけでなく、配偶者や後継者にとっても意欲とやりがいをもてるものにするためには、目指す農業経営の姿や環境整備について家族間で充分に話し合うことが、経営改善につながります。

問い合わせ先：農業委員会事務局 0287-62-7186

農家の皆様の意見をお願いします。

農業委員会では、市・県に対し農地等利用最適化推進施策の改善についての意見を提出しています。皆様の意見をくみ上げて、意見に反映したいと思っておりますので、次の事項について、御意見をお願いします。

- 提出方法：FAX、ホームページ(農地等利用の最適化推進に関する意見書の項目)からのお問い合わせ
FAX番号：0287-62-7184
- 農地等の利用の最適化の推進に関する事項
 - ・担い手への農地の集積・集約化
 - ・遊休農地の発生防止・解消
 - ・新規参入の促進(新規就農の促進、企業参入の促進)

農業委員会 活動日誌



- 農地転用・権利移動の審議
総会(原則、毎月25日に開催)
- その他 次の会議等を開催しました
 - ・農業委員会全体会議(兼第6回農地利用最適化推進会議)
 - ・運営委員会、農業委員会だより編集委員会、農業振興対策調査研究委員会
 - ・那須塩原市農地移動適正化あっせん基準作成協議会、農作業標準料金検討委員会
 - ・農地転用案件等の現地調査



商品の様子



案内図



位置図

朝9時に開店しますが、おおね日に150人のお客様がいらつしやいます。開店早々の1

鳥野目直売所は、鳥野目オートキャンプ場の整備に合わせて併設しました。当初は集落内の10軒の農家が協力して地元産の野菜を出品していましたが、高齢化の影響で今では4軒に減ってしまいました。それでも、他の地域の商品は置かず地元産の野菜にこだわって商品を揃えています。トマト、なす、きゅうりなど一通りの野菜がありますが、特に、この地域は川沿いにあり、農地には砂が多いため、いも類(じゃがいも、さつまいも、里芋など)は、とてもおいしいという声をいただいております。私たちも自信を持っている商品です。

所 在

那須塩原市鳥野目391番地1
0287-6414334

※商品がなくなり次第終了

時間ではほぼ売れてしまいますので、早めの御来店をお待ちしております。
また、現在は冬期休業中ですが、令和4年度は4月16日(土)にオープンする予定です。例年、その日にはオープン祭を開催し、冬を迎える最終の日には感謝祭を開催しています。色々な催し物などがあり、大勢のお客様で賑わいますので、是非、お越しいただければ幸いです。

営業時間 4月から11月の間の土、日、祝日のみ営業 午前9時~午後2時まで



鳥野目直売所

地元で採れたての野菜ばかりで安心。安くてボリュームがあると好評です。

魅力あふれる 全国農業新聞

- ・農業経営に役立つ情報満載!
- ・地域づくりのヒントがいっぱい!
- ・暮らしや生活に役立つ話題がたくさん!



毎週金曜日(月4回)発行 講読料:月額700円

購読お申込みは、農業委員、農地利用最適化推進委員又は農業委員会事務局(0287-62-7186)まで

編集委員長
副編集委員長
編集委員

松本 忠太
大田 原重夫
市川 一男
江連 節男
加藤 拓央
金田 廣衛
菊地 寿行
君島 良一
島田 利男
花塚 栄
藤田 孝一郎
室井 孝美
渡辺 豊

農業委員会だより
編集委員